

北海道札幌藻岩高等学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

1. 研究のねらい

環境問題が世界的な重要課題となり、環境に関する正しい理解と環境保全に対する強い意思をもつことがこれからの時代を生き抜く人間の資質として求められる時代を迎えている。このような状況において、本校では「環境に対する興味関心を高め、自然や人間に対し優しく思いやりのある生徒を育てる」ことを目指し環境教育に取り組んでいる。学際的、探究的取組や身近な環境問題へ対応する具体的行動など質的にも量的にも多様な環境問題に対する本校の取組が、生徒の環境に対する幅広い知見を育むということを実証的に研究することが研究のねらいである。

2. 取組内容

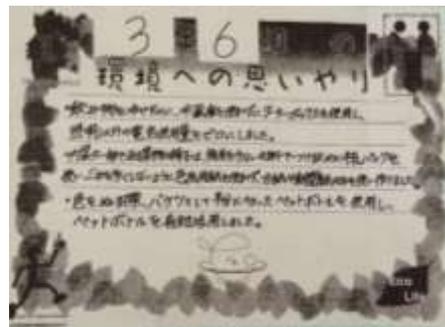
(1) 「生徒会での取組」(全校生徒)

①目標

生徒会を中心として、生徒が主体的な環境保全活動に取り組む。

②内容

- ・『清掃ボランティア』として、校舎周辺や地域のごみ拾いを年1回実施している。
- ・『ごみの種分け運動』として、毎日の清掃において、ごみをきちんと細かく分別するとともに、教職員と保健委員が指導に当たっている。
- ・『エコ学校祭』として、学校祭の開会式では全員で環境に関する宣言をしている。クラスの装飾では段ボールや木材を再利用して、各クラスで取り組む模擬店、喫茶などにおいても環境宣言をし、エコにつながる独自の工夫を凝らしている。



(2) 「文化環境委員会による取組」(全校生徒)

①目標

- ・環境に関する調査を行うとともに、データ分析をすることにより変化の要因を考えさせる。
- ・検査結果から、今後自分たちが何をどのように取り組むべきかを考えさせる。

②内容

- ・『豊平川の水質検査』として、文化環境委員会による前年度までのデータ分析報告をした後、全校生徒で、豊平川水系から汲んできた水の水質検査を実施する。32ヵ所に及ぶ採取場所から汲んできた水を検査する



とともに、今年度は、治水・利水について藤女子大学から講師をお招きし、講演会を実施した。

- ・『ごみの排出量調査』として、文化環境委員会による前年度までのデータ分析報告をした後、全校生徒でごみを集め、その量を測定する。

(3) 「高大連携事業…環境教育講座」（1年生全員）

①目標

- ・大学レベルの講義・実験・実習に携わることにより、環境に関する先進的知識を吸収し、環境に対する科学的考え方を深める。

②内容

- ・『環境教育講座』として7月に受講講座を決定し、夏休み中に各自で事前学習に取り組んだ。9月に北海道大学農学研究院・工学研究院・文学研究院・地球環境科学研究院・情報科学研究科・総合博物館・附属植物園、札幌市立大学デザイン研究科の協力を得て1学年の生徒321名全員が1日、大学で講義を受け、実験・実習を行った。その後、大学生ティーチング・アシスタント（TA）の協力のもと、班ごとにプレゼンテーションを作成し、クラスで発表による代表決定後、学年全体発表会で、北海道大学の先生や保護者を招いた中で発表を行った。



3. 成果と課題

(1) 成果

興味・関心をもったことに関して、更に自分で学習して深めていく姿勢が多くの生徒に見られた。また、それに伴って自らの進路についてもよく考えられるようになった。

日常生活では、清掃やごみの分別などを率先して行うなど、環境に関して考え、実践している。また、環境教育の本来の目的である、人に対する優しい心についても確実に育んでいる。

(2) 課題

現状の環境教育がどれも単発的な実施に留まっており、藻岩高校全体でどのように環境教育を行い、どのように環境と向き合っていく生徒に育てるかという骨子が曖昧になっている部分がある。平成16年よりモデル校としてやってきた経験をもとに、環境教育の体系化を目指す。